

第17回「助成研究吉田秀雄賞」決定

当財団は第17回「助成研究吉田秀雄賞」の受賞者を決定しました。

本賞は、「広告・広報・メディアを中心とするマーケティングおよびコミュニケーション」に関する研究助成事業の成果の中から優れた研究を顕彰するものです。選考委員会(選考委員長:亀井昭宏早稲田大学名誉教授)による厳正な審査の結果、2018年度に当財団が助成した研究成果(常勤研究者の部7件、大学院生の部4件)の中から、下記の方々が受賞されました。

贈賞式は、11月8日(金)当財団で開催しました。



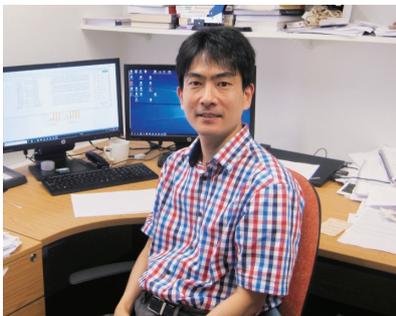
受賞者の河塚悠氏と選考委員長・副委員長(前列)



河塚氏(左)と当財団理事長



受賞者挨拶をする河塚氏



ダラム大学ビジネススクールのオフィスにて

亀井憲樹氏から届いた受賞メッセージ

この度は名誉ある準吉田秀雄賞を賜り、本当にありがとうございました。吉田秀雄記念事業財団の皆様、審査をしてくださった先生方に深く御礼申し上げます。この研究では、購買と慈善活動をリンクさせると、人々は慈善情報をもとに戦略的に行動するため、レビュー制度など補助的な仕組みが社会に必要とわかりました。本研究では、誘因両立でデータを収集できる実験を行いました。マーケティング手法が早いスピードで作られる昨今では、実験研究も益々有効になっていくと考えております。受賞を励みに、研究活動を精進して参りたいと思います。

(常勤研究者の部)

準吉田秀雄賞
(副賞50万円)

「慈善活動とリンクさせた
オンライン・プラットフォームによるマーケティング手法の評価」

亀井 憲樹

ダラム大学経済・ファイナンス学科准教授

(大学院生の部)

奨励賞
(副賞10万円)

「パッケージ・デザインが消費者の製品購買後の行動に及ぼす影響
～食品の提供量と提供形態の異なるパッケージから消費者は
どのように摂食するのか?～」

河塚 悠

慶應義塾大学大学院商学研究科後期博士課程
(現: 富山大学経済学部専任講師)

※常勤研究者部門の吉田秀雄賞、大学院生部門の吉田秀雄賞/準吉田秀雄賞は該当なし

制定以来、今年で17回目を数える「助成研究吉田秀雄賞」の選考委員会は、去る9月27日(金)、選考委員14名中11名の出席を得て開催された。

選考の対象は、平成31年3月末をもって研究が終了し、研究論文の形で研究成果が財団事務局宛に提出された平成29年度助成研究(2年間の継続研究)および同30年度助成研究(単年研究)としての合計11件(常勤研究者の部7件、大学院生の部4件)の研究であった。ちなみに、常勤研究者の部では継続研究が5件、単年研究が2件、また大学院生の部では継続研究が1件、単年研究が3件であった。

選考は2段階に分けて行われた。まず、選考委員ではない2名の学識経験者(マーケティング論および消費者行動論を専門とする大学教員)による予備審査を行い、その結果を踏まえて仁科貞文副委員長と私の2名で協議の上、結果的に2部門共に上位評価の3件の研究論文を本審査に委ねることとした。

大学院生の部で、研究助成受領者が指導学生の場合には自動的に評価を辞退していただく形で(今年度は1件だけ該当する事例があった)、約1か月半の選考期間を設けて全委員に選考対象論文の評価をお願いした。評価の基準は、常勤研究者の部では①学術性、②独創性および③インパクトが、また大学院生の部では①先行研究と仮説、②オリジナリティ、③実務への応用可能性、④論旨の明確さ、⑤実証手続き、そして⑥将来における展開可能性の6項目を基準として、それぞれ合計30点満点での評価と、該当すると思われる賞の提示とをお願いした。

選考委員から提出された評価結果を財団事務局で集計し、その結果を手元で確認しながら1件ずつ出席委員全員で協議をして、賞の確定を行った。その結果、残念ながら今年度においては「吉田秀雄賞」該当論文はなし、との結論に至った。ただ、常勤研究者の部で亀井憲樹氏(ダラム大学経済・ファイナンス学科准教授)の「慈善活動とリンクさせたオンライン・プラットフォームによるマーケティング手法の評価」に「準吉田秀雄賞」を、また大学院生の部で河塚悠

氏(慶應義塾大学大学院商学研究科)の研究論文「パッケージ・デザインが消費者の製品購買後の行動に及ぼす影響～食品の提供量と提供形態の異なるパッケージから消費者はどのように摂食するのか?～」に「奨励賞」を授与することが、選考委員多数の支持を得て決定された。

常勤研究者の部で見事「準吉田秀雄賞」を受賞した亀井氏の論文は、近年増加しているオンライン・プラットフォームでの寄付行為の有効性を、ゲーム理論を用いた実験調査によって①寄付プログラムの有無、②取引相手との強力性の有無および③実績公開の有無、という3つの視点から明らかにした意欲的・挑戦的な研究である。実験計画は実に緻密であり、選考委員の半数以上が「準吉田秀雄賞」に該当するとの高い評価を下していた半面、実験設定が人工的で現実妥当性にやや欠けていることもあって、結果の説得力が若干不足していることなどが「準吉田秀雄賞」にとどまった理由である。

大学院生の部で「奨励賞」に輝いた河塚氏の論文は、先行研究のレビュー、丹念な予備調査に基づく仮説の導出、実験計画、データ分析に至るまで明快で説得力ある論述展開がなされており、選考委員の間から「海外の学会誌にも投稿できるレベルにある力作」との評価が下されたほどの優れた論文である。わが国においては必ずしも研究や知見が多いとはいえない、製品容器の大小、同じ容量の製品の提供形態が消費者の摂食行動や摂食量に及ぼすメカニズムについての研究として、その結論に高い評価が下された半面、研究目的である食事制限実施者における食品分割の矛盾が実証されていない上に、想定したモニタリングのメカニズムが解明されていない点などが指摘され、残念ながら僅差で「奨励賞」にとどまった次第である。

受賞の荣誉に輝かれたお二人に対して心からの祝意と敬意を表するとともに、来年度(第18回)は「吉田秀雄賞」を受賞する研究論文が出現することを心から期待したい。

Editor's Note

暗号資産「リップラ」が頓挫する間に急遽、中国がデジタル人民元をリリース。だが、ほぼ同時に偽デジタル人民元発生との情報がある。安全性の見極めが困難をともなう環境ではユニバーサル・サービスの危険度は増大し、強固な結界が必要とされるだろう。(傾)

地域通貨の取材で千葉・木更津に行った。台風被害の爪痕が残る中、明日のより良い地域づくりに尽力される方々にお会いすることができた。新しいシステムで変革を目指す際にも、人の気持ちが何より大切であることを改めて感じた。(葡萄)

研究助成では大学院生向けの研究相談会を初めて開催しました。後輩の助力になればと、快くアドバイザーを務めてくださった若手研究者の皆様、記入見本としてご自身の申請書を提供いただいた方々、本当にありがとうございました。(ひろた)

AD STUDIES 2019年12月25日号 通巻70号
公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
〒104-0061
東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
TEL : 03-3575-1384 FAX : 03-5568-4528
URL : <http://www.yhmf.jp>

発行人 岩下 幹
編集長 布施博嗣
編集部 岩本紀子、沓掛涼香
編集協力 プレジデント社
表紙デザイン 八木義博+畠山大介、中谷晴子(Creative Power Unit)
撮影 片村文人

本文デザイン 南 剛(中曽根デザイン)
校正 株式会社ヴェリタ
印刷・製本 大日本印刷株式会社

©公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
掲載記事・写真の無断転載を禁じます。